

QI『医療の質を測り、改善・向上する』2019年指標によせて

新型コロナウイルス流行禍において医療の質が問われる2020年です。

2020年07月14日

みどり病院長 松井一樹

みどり病院は、2011年より全日本民医連が取り組む「民医連QI事業」に参加しています。そして、2013年より、ホームページ上に公表しています。

「自分たちの提供している医療の質がどのようなものか」指標として数値で表し、分析・公開する事で達成度・課題・目標を見える化し、それを元にPDCAサイクルを回し、さらに医療の質を上げ、各部門目標を立案する取り組みに到達しています。

この間、患者さんの高齢化・治療基準の変化があります。その中で、『質』をとらえることが重要です。

例えば、転倒・転落の指標は、身体抑制をしなければ増加する傾向がありましたが、それでもなお、センサーベッドの導入などで、その数値を減少させています。以前は、「転倒・転落をさせてはいけない。」であったものが、「二足歩行の人間がこけるのは当たり前。0にするのは寝かせておくこと。だから、転倒しても軽傷で済む工夫が大切」との考え方で、担当者が知恵を絞って患者さんのベッド廻りを工夫しています。

2019年のQI指標報告では、各指標に関連する当院の各種取り組みを紹介しております。これら報告から、当院の各部門あるいは、横断チームが協力して医療活動の質の向上を目指して奮闘していることがうかがえます。

2020年現在、私たちは、新型コロナウイルス流行禍において、あらためて医療の質が問われる状況に直面しています。

職員一人一人のアイデアを出し合って、引き続きQI活動を推進していきます。

